
品川弥二郎 明治十四年懷中日記

齋藤伸郎

一 解題

1 品川弥二郎文書について

幕末長州藩の志士・明治の政治家品川弥二郎（一八四三～一九〇〇年）は、獨協学園の前身である独逸学協会の創始者のひとりである。品川はまた、約七千点という膨大な文書史料を遺している。学習院大学に在職していた井上勲氏に品川家と関係のある学生が伊藤博文発信書簡を持ち込むことにより発見された。昭和四十年代だったという。国立国会図書館憲政資料室に譲渡され、「品川弥二郎関係文書」（その1）（その2）として公開されている。

そのうち書簡史料は三千五百点を超え、尚友倶楽部品川弥二郎関係文書編纂委員会で品川宛書簡が翻刻され刊本『品川弥二郎関係文書』

として一九九三年から出版され、既刊七巻を数えるかなお未完である。その他、日記、報告書などがあり、国会図書館ホームページによると明治十年代～二十年代の史料が充実しているとのことである。

2 「明治十四年懷中日記」について

品川の日記としては、前記憲政資料室蔵「品川弥二郎関係文書（その1）」に明治四、六、九、十一、十五、十七、二十六、二十八年の日記（全て懷中日記）が遺されており、また、原本の所在は不明だが、幕末時の日記が日本史籍協会編『維新日乗編輯』二に収録され、熊本籠城戦時の日記が、当時、新聞掲載されている。

今回、紹介するのは、「明治十四年懷中日記」である。原史料の形態は、変色して赤紫になった革製表紙の手帳様で、縦8cm×横6cm×厚さ0.5cmと極めて小さく、全頁を通じて黒色の鉛筆書き、楷行草混

じって書かれている。一般にはマイクロフィルム公開されている。

この年は国会開設の勅諭・参議大隈重信の追放などが行われた「明治十四年の政変」の年であるが、日記史料が極端に少ない。長州閥高官ではこの品川の日記しか遺っておらず、貴重である。

この年、三八歳、官僚品川の動向をいくつか取り上げてみよう。

① 内国勸業博覧会：品川にとつての明治十四年の前半は、四年ぶりに行われた第二回勸業博覧会が最も大きなイベントであった。事務官長として、事実上指揮を取ったのである。一月六日に第一回会議、以後、一月十一日予定場内を視察、三月一日開場。日記には博覧会のため上京してくる地方官・出品者などの来場者名が並び、忙しさが目に見えるようである。五月三日皇太后、五月五日松本鼎熊本県書記官、五月九日陶芸家の手塚龜之助、五月十二日参議山県有朋、六月十日・十七日天皇、六月十九日旧主毛利元徳（従二位公）など、五月八日には上京してきた各県関係者を集めて接待している。六月七日からは残品処分打ち合わせもしている。六月三十日閉場。八月三十一日賞与二百円を受領。

② 団体との関連：品川は、四月七日まで内務省少輔、以降は新設された農商務省少輔となった（明治十五年六月より農商務大輔）。この頃政府は勸農政策を具体化していくが、職掌もあり様々な団体の立ち上げに関係し、会合に出席している。

三月十一日農談会（全国の篤農たちの農業に関する会議）、五月九日山林共進会（農商務省主宰の勸業政策のための会議の一つ）、

五月二一日地震会（のちの地震学会）、五月二八日地震会（地学会）、九月二七日勸農義社（農業奨励のための組織）、十一月四日には関東四県の共進会の大会に二泊で八王子に出張している。

③ 河野農商務卿との抗争：四月七日に新設された農商務省の卿（現在の長官クラス）となった河野敏鎌（土佐出身）と品川は噂になるくらい折合が悪かったらしい。ただし河野の人物眼は品川も反発しながらも認めているようである（伊藤博文関係文書による）。

五月二日、ともに駒場農学校を見学しているが、次第に仲が悪くなってきたのか、五月十七日より不在（休暇・出張）と記すようになってくる。

六月二四日から七月一日にかけて、河野発案の局長交代人事を巡り、相談を受けていなかった品川は反発、伊藤・山田顕義・有栖川左大臣・三条実美太政大臣ら政府首脳、農商務省の下僚の名も登場し、日記の記載も突然多くなってくる。結局、河野は、山林局長を古参の宮島信吉から側近の牟田口元学へ交代させた。

④ 十月、十四年政変の混乱の中、河野は退官する。大隈重信との繋がりのおかげと解説されているがはっきりした理由は不明である。長州閥の分裂：現在の山口県出身者で構成される長州閥は総帥木戸孝允が明治十年に死去した後、百人規模の中・高級官僚を擁す緩やかな結束の集団となっていた。参議の伊藤博文・井上馨・

山県有朋・山田顕義が四大指導者で品川・野村靖・杉孫七郎・河瀬正孝・鳥尾小弥太・三浦梧楼らがそれに次ぐ地位にあった。

九月、北海道官有物払下事件に端を発し、自由民権運動が盛んとなったが、政府内部においても主流派に対する抗争が始まった。長州閥内では陸軍中将の鳥尾・三浦が動いた。同じ将官の谷干城（土佐）・曾我祐準（柳川）と結び建白書を出そうとしたのである。彼らは品川や河瀬正孝を説得し仲間にしようとするが、品川は山県と共に鎮庄側に回る。品川の説得も虚しく、九月十二日鳥尾らの建言書は三条太政大臣に提出され、以後、鳥尾・三浦は、長州閥反主流派となり陸軍を追われる。

⑤ 明治十四年政変について：品川の日記には政変の片鱗が見える。九月五日山県より還幸後に（七月末より天皇は北海道へ巡幸していた）「大改革」の計画を伝えられている。

十月十一日、政変に関する御前会議が三大臣・薩長参議によって行われた。品川は予め知らされていたらしく、旧友野村靖・伊藤側近伊東巳代治・義弟の平田東助と夜中まで結果を待つていたようである。十二時に解散したものの、品川は野村と山県邸を訪れ、結果を聞き、喜んでゐる。翌十二日大隈の辞表提出・国会開設について書かれている。

十六日夜、品川は薩長首脳会議に初めて出席する。以後、神奈川県令から駅通総監に異動した野村と共に断続的に首脳会議に列している。

大隈辞職後の政府強化のため、大山巖の外交官転出を阻止した

り（十月二十日）、黒田清隆による北海道開拓使廃使問題では、かなり関係していることがわかる。

農商務省内の混乱も書かれ、宍戸昌工務局長・曾根静夫山林局一等属の辞任や（十月二十五日）、小山正武商務局少書記官の諭旨免職を鈴木利亨少書記官に指示した旨が触れられている。同時に退官した河瀬秀治は「鈴木利亨が品川の指示で諭旨に来た」と談話を残しており（『河瀬秀治先生伝』）、それと符合する。政変において直接、諭旨を指示した史料はおそらく初めてで貴重である。農商務省では卿の河野をはじめ八局のうち半分の局長が退官したが、品川は新たに卿となった西郷従道と協力し、局内の動揺を抑えた。

3 品川日記とドイツ学

品川は、明治三年にヨーロッパに派遣され、現地で長州出身の青木周蔵から影響され、ベルリン公使館の外交官となった。ドイツ語を習得し、帰国後、明治政府におけるドイツ・シンパの中核となって行く。

独逸学協会はこの明治十四年に、次に述べるいくつかの勉強会を母体に設立されている。

ドイツ銀行制度の勉強会が「スパールカッセ会」である。品川と義弟平田が中心で、五月七日を皮切りに頻繁に開かれている。

「国法会」というのは外遊をしたことがない左大臣有栖川宮熾仁親王のためのドイツ法の勉強会である。五月二三日に開かれ、品川日記

では簡潔だが、有栖川の日記では「独逸政法講義」とされ、北白川宮・品川・平田・荒川邦威の出席が書かれている。有栖川日記では六月六日にも会合が行われた旨、書かれている

明治十二年から独逸同学会という集まりも行われていて、これは在留経験者の親睦会に近いようだ。七月四日に記載されている「独乙会」はそれと思われる。

十月二四日に「独乙会の事に付」、桂太郎・平田東助・荒川邦威・本尾敬三郎が集っている。

十月三一日、精養軒で「独逸学共会」設立の集会が出席者五四名で行われた、その後は本業の方の記事が多くなり、忙しくなったのか、日記に現れるのは十一月二六日の独逸共会規則校訂のみである。

ところで、独逸学協会の設立日は一般には九月十八日とされる（『獨協学園史1881-2000』二〇〇〇年など）。会長北白川宮の演説「十四年九月遂に会の創設を得」（『独逸協会雑誌』二二号四九頁）との発言を補強史料としているが、九月十八日、北白川宮は天皇に従って東北に赴いており（宮内公文書館所蔵『能久親王年譜稿』）、品川や加藤弘之の日記・当時の新聞などにもその日に創立や集会に関して、記載されていない。一方、後の首相、当時の内務卿松方正義は独逸学協会長北白川宮名の推薦会員状を受領しているが、書類上の日付は十月一日である。当時の封筒・送り状は遺っていない。（国立国会図書館憲政資料室所蔵「松方正義関係文書」）

十一月一日付東京曙新聞には「品川農商務少輔には昨日独逸学共会会員数十名を築地精養軒へ招き親睦の宴を開かれたり」と、品川日記

に現れる十月三一日集会の記事が載っている。『能久親王年譜稿』には同日付で（北白川宮が）独逸学協会会長に推選を受け給す」との記事がある。設立總會日付について、この日記と『学園史』などの記述が符号しない。

十四年の品川の日記には、ドイツ関係者の名が多数上る。既に挙げた者の他、和田維四郎・近藤幸止・柴田承桂・松野礪・花房直三郎、マイエツト、ケルネル、ナウマン等、明治十四年においては品川こそドイツ学者の結末点で、独逸学協会の最中心人物だったと思われる。

二 凡例

1 掲載史料は、国立国会図書館憲政史料室所蔵「品川弥二郎関係文書」（その1）資料番号二五八一「明治十四年懐中日記」の本文全文を翻刻したものである。明治九年正月と思われる紙片および表紙裏の書込は割愛した。

2 翻刻にあたっては、できるかぎり史料の原形をとどめるように留意したが、以下の点については原則として改めた。

- ① 漢字は常用漢字を使用した。変体仮名は現代仮名に改めた。慣用的な合字は、*を*を除きひらき、現代仮名（カタカナ）に改めた。
- ② 月日単位で改行を排した。原文には少数の句点のみがあるが、適

宜、句点の追加、読点及び並列点（・）を施した。

上野内博³第一回会議。

③ 「」は原文どおりで、「」は編者による注記である。略称・脱字・誤字に割注・傍注・傍記を組み合わせて記載した。

一月七日

④ 判別不能な消字は「消」、判別可能な時は、書き起こし修正線を加えた。

出省。静岡警部佐々木⁴来り。書記官〔消〕後任云々ノ事ニ付、来省。直ニ徳下ニ遣ス。椀山^神大警視⁵来り、十三日発表云々談アリ松方。へ電報、且ツ村木⁷ヲ遣シ、九日夜迄ニ帰京ノ事申遣ス。

⑤ 場所により左右・上下の順が異なる場合は文章に従って翻刻した。

○夜、神原精²。来談。久留米移住士〔族〕^取ノ事ヲ談ス。○午時、和田⁹と独公使館ニ行、両教師¹⁰ノ云々ノ事ヲ談ス。

○△◇の記号、（二重傍線）は原文どおりである。

3 文末註の引用原典詳細は参考文献別表に記載しており、必要に応じて文献名称を特定出来る範囲で略し「」で括った。人名を特定出来る場合には、初出時に記載時期の職名、出身藩または官員録上の属地を註記した。

一月八日

人名は、長州人脈、内務・農商務人脈を優先して推定した。

陸軍始、不参。島惟精¹¹○布施¹²○田中考永○右田貞¹³〔消〕来訪。午時を西ゲ原試験場ニ行。

三 「明治十四年懷中日記」

一月五日

一月十日

出省。松方、下総を帰京。午後、十日会ニ行。夜ニ入り帰ル、少雨ス。警視〔局〕^取改正之人員仕出シス。今朝、金沢管所¹⁶焼失ス。

新年宴会、不参。

一月十一日

一月六日

出省。太政官ニ行。皇城建築費ノ事ヲ大隈ニ談シ置。午後四半、帰宅

出省。太政官ニ行。府火災予防費ノ事ヲ大隈¹と談ス。山県²来訪、

後、博覽場中ヲ廻見ス。夜、木佐満来ル。中精¹⁷来話。○マサ、小田

原を歸京ス。

一月十二日

出省。歸途、山県ヲ訪フ、不逢。

一月十三日

出省。午後、上野内博會議、松方出席。夜、高松興民社之長、泉川¹⁸來話。

一月十五日

出省。九段ニ行、投宿ス。

一月十六日

晴、午時方強風。静¹⁹と青木ヲ駒場ニ訪フ。九段ニ宿ス。

一月十八日

出省。夜、延邊館夜会。夜、大雪、九段ニ宿ス。

一月十九日

出省。九段ニ宿ス。例会、益田引受。

一月二十日

出省。上野會議。夜、カゴ島県令²⁰來話。神官年礼。

一月三十一日

出省。今日、九段洋室其外三条殿²¹へ引渡ス。雨。夜、鳥山²²來話。僧侶年礼。開查課會議。中条²³へ行書狀認ム。独乙青木²⁴○平田²⁵ニ行書狀認ム。

一月二十六日

神田橋本町方出火²⁶。

一月二十七日

勝津²⁷外上京。

二月九日

出省。山県、法会ニ行。黄昏歸宿。

二月十日

出省。午時方内博會議。夜、三条公へ世嗣²⁸歸着ニ付招カレ。勝津着。

三月一日

博覽会開場式。

三月十一日

淺草本願寺ニテ農談会ヲ開ク。

三月十二日

内務卿、静岡共進会ニ出張。

三月十五日

魯帝崩御²⁹ノコトヲ聞ク。

三月十六日

布哇帝³⁰〔消〕出発。

四月二十七日

勝津、帰萩。

四月二十八日

莊太³¹、帰京ス。

四月二十九日

国重³²・木村³³来訪、晩食ヲ共ニス。木村正幹³⁴ハ五百円ヲ借用ス。

五月一日

武井³⁴・木村・三輪³⁵と岩村の飽休庵ニ会食ス。

五月二日

河野³⁶と駒場農学校ヲ廻見ス。佐野³⁷、安在³⁸、来話。

五月三日

曇。皇太后宮³⁹、博覧会へ行啓。山本清十⁴⁰、昨日着京。莊太、福島ニ帰ル。

五月四日

出省。山清〔山本清十〕ト工部省ニ行、皇城建築材伐採ノコトヲ談合ス。内海羊石⁴¹来訪。○鳩ヶ谷戸長来訪。会場ニ行、青磁会社⁴²の洋皿ヲ求ム。夜、八百善ニ行、河村⁴³・藤田⁴⁴と会ス。夜、十一字帰宅。

五月五日

出省。勸農談話会閉場式。午後、審査ノ決定会アリ。夜、雨。松本⁴⁵・近藤⁴⁶来訪。

五月六日

上野精養軒ニテ勸業会員ヲ会食ス。

五月七日

出省。午時、スパール会⁴⁷、多田⁴⁸・荒川⁴⁹・本尾⁵⁰と会食ス。午後。夜、松本来宿。

五月八日

晴。宮殿下⁵¹ハ各府県委員等ヲ美術館楼上ニテ饗応アリ。夜、治助⁵²

来食、一弦琴ヲ彈ス。今様、第一回ヲ習練ス。

五月九日

島津⁵³家ニテ犬追物天覽。山林共進会ノコトヲ〔消〕府県委員へ談ス。夕五字ノ山高⁵⁴、原田⁵⁵、精磁社手塚⁵⁶、辻⁵⁷の諸氏来訪。

五月十日

晴。皇城建築御用ニテ西丸ニ集会ス。○朝、島地⁵⁸来訪。百五十円ヲ国重大書記官ニ託シ、西京田中屋⁵⁹へ返納ス。夜、佐々⁶⁰・高原⁶¹・湯地⁶²来会ス。松本鼎宿泊。

五月十一日

晴。小林武其外来訪。七会社長ニ本省ニ面会、見込ヲ聞ク。夕六字頃ノ勝間田⁶³来訪。池莊⁶⁴来宿。

五月十二日

中山捕鯨・会津草苅等来ル。山県来訪、共ニ会場ニ行、十一字帰宅。出省セズ。午後二字、集会之処、松方・佐野⁶⁵差支リ延引ス。三浦⁶⁶夫婦来訪。夜、三輪来談。今様ノ第二回ヲ習フ。○馬車や来リ。石井⁶⁷ノ讓受之馬代、車価ノ対価ヲ百五十円卜定ム。

五月十三日

出省。午後〔消〕

五月十四日

出省。喜代三来京。

五月十五日

晴。大久保⁶⁸の墓ニ詣。夫方代々木ニ行。三輪・茂木⁶⁹来会。夜帰宅。

五月十六日

晴。動物天覽ノ為、行幸アリタリ。還幸後、授与式ノ事ヲ談合ス。

五月十七日

晴。出省。河野病氣ニテ不勤。夜、松本来泊。

五月十八日

晴。白根⁷⁰・桂二郎⁷¹来訪。出省、河野不勤。忠誠公⁷²十年祭ニ付、高輪ニ行。夜、和田・樋田⁷³・青柳⁷⁴ヲ招キ、晩食ス。宍戸へ今月分掛金百円ヲ渡ス。

五月十九日

晴。風。出省。午後内博会議、宮・三副総裁⁷⁵臨場ナシ。山高、鈴木⁷⁶ト神田本館ヲ廻見ス。

五月二十日

晴。風。埼玉県勸業課長中山⁷⁷来訪。石井邦猷へ馬車代トシテ百五十

円・外二馬代二十二円余・馬車税昨年分四円持セ遣ス。河野回復、出省ス。

五月二十七日

河野其外下総ヲ帰京。正午、松方へ招、内ム各局長来リ。

五月二十一日

出省。午後、松本・長岡⁷⁸ト共ニ地震会⁷⁹ニ行。博覧場内ニ入り、共ニ帰宅シテ晩食ス。夜半、揮毫ス。

五月二十八日

晴、出省。午後、地学会。西徳⁸⁶、露旅行談。来月ノ一日、臨御ナキ御用沙汰アリシコト、杉⁸⁷ヲ書通。

五月二十二日

風、晴。山本、河野通⁸⁰、藤田一郎其外来訪。午後、松本来ル。共ニ美術会ニ行。帰途、事務局ニ行。

五月二十九日

晴。竹宮嘯山⁸⁸来訪。

五月二十三日

半晴、出省。退省方有栖川宮⁸¹ニ行、国会会⁸²。夫方平清ニテ花満会。河〔野〕卿、下総行。

五月三十日

出省。授与式、来ル十日ニ改メテ御達シニナル。

五月二十四日

雨。浅草文庫⁸³ニ行。夫方出省。午後、火災保険条例〔消〕会議。ス
パール集会ニテ荒川ニ行。

六月一日

晴、出省。松本帰熊。朝鮮視察員来省。

五月二十五日

半晴。橋本⁸⁴、片山⁸⁵兩人来話。上野集会。

六月三日

出省。岩倉⁸⁹の馬車ヲ借覽ス。

六月四日

出省。

六月五日

岩倉二行、千種有任⁹⁰ノ事ヲ託セラる。山県へ行、越後の知ヲ告ク。御殿坂ニ在ル寺田ノ家ヲ廻見ス。

六月六日

雨、出省。夜、伊藤巳代治⁹¹来訪、白錫ノコトヲ談ス。

六月七日

雨、出省。博覧会ニ行。三万円ニテ残品処分ノコトヲ石原⁹²ニ託ス。夜、田中屋来訪。

六月九日

出省。午後、上野内博会展。蝗発生ノ事、北海道へ電報来ル⁹³。虎三⁹⁴来着。○残品処分老万五千ニテ見込を立テ申出ル事ニ決ス。

六月十日

雨。内博授与式、臨幸アリ。魯国中将レソプスキ⁹⁵氏ノ妻、席替ノコトニ付、魯公使館ニ行。夫アドミラルノ旅宿ニ行、謝辞ス。夜、精養軒ニテ食会ス。

六月十一日

雨。出省。午後、池田⁹⁶夫婦来話、晩食ヲ共ニス。山形青森北海道御巡幸、被仰出。

六月十二日

半天⁹⁷。午後、晴。夜、烟火アリ。朝、岩公〔岩倉具視〕ニ行。士族授産ノ金額ヲ定ムルコトニ付、直ニ伊藤参議⁹⁸ヲ麻布邸ニ尋ヌ。「レソフスキ」氏妻、会場ニ来觀ス。

六月十三日

晴、出省。太政官ニ出。士族授産三千万円一時支出ノ事、決。本省定額増加ノコトヲ大隈・伊藤兩参議ニ陳述ス。午後四字、岩公ニ行、昨日来授産一件ノコトヲ陳ス。紅葉館ニテ旧友会アリ。

六月十四日

河瀬⁹⁹、山寅¹⁰⁰来リ。製糖場ノ始末ヲ談示ス。

六月十七日

雨。聖上、場中へ臨幸アリ。

六月十八日

雨。午後、晴。北白川宮大臣・参議・各省長・次官・外国公使ヲ招カル。夜、津軽郡長笹森儀助¹⁰¹来談ス。出勤セズ。

六月十九日

従二位公¹⁰²、来場二中ヲ案内ス。

六月二十三日

晴、出省。加納治平次来ル。添書シテ神鞭¹⁰³ニ遣ス。同人去後、小室¹⁰⁴・藤田来リ。韋革ノコトヲ聞。田代ト加納三万ノ約アリテ違約ノコトヲ聞。出省シテ、神鞭へ昨日今朝トモ頼ミシ加納ナル者の虚偽ナルコトヲ申遣ス。上野会議、荷為替ノコトヲ談ス。

六月二十四日

晴、出省。午前、田代覚兵衛来リ。韋革ノ事ヲ談ス。○和田○島根書^記キ官¹⁰⁵○吉田俊人¹⁰⁶○豊橋¹⁰⁷ノ郡長等来ル。午後、田辺・山吉¹⁰⁸来ル。今朝、出省。卿〔河野〕^ハ山林局長・工務局長^マサスル云々ノ談アリ。コノ義ニ付、伊藤へ云々申遣ス。

六月二十五日

曇。齒痛ニテ出省セズ。長谷川¹⁰⁹二行、治療ス。伊藤^ハ返書アリ、昨日既ニ、局長^ハ替代ノ事、上申ナリシト愕然ニ堪ヘス。午後、愛知県^令山¹⁰、古橋輝兒¹¹翁ヲ連レ来ル。○岩公^ハ侯士族ノ事件書附ヲ返上セヨ云々。

六月二十六日

曇。河野ヲ訪、不逢。○岩倉二行、士族授産ノ書ヲ返上ス。○三田競

馬場へ臨幸アリ。

六月二十七日

出省。河野病氣ニテ出省セズ。夕、七会社ヲ本省へ招キ、博覽殘品為替ノコトヲ談ス。

六月二十八日

出省。種畜場へ御臨幸アリタリ。廿四日、山林局長^ハ替代話^ハハジメテ卿ニ面語ス。廿四日、直ニ上申之コト云々と論責之末、山林ヲ独立サスル事ニ決シ、やじ¹¹²総官ニ任セラレんコトヲ卿^ハ直チニ太政官ニ上言ス。伊藤へコノコト書中ニテ通知シ置¹¹³。夜、宮島¹¹⁴来訪。昨日、卿^ハ同人ヲ呼び都宮アリ。書記局ニ入レルコトヲ、此、談シラレシコトヲハジメテ聞ク。

六月二十九日

晴。各府県之委員ヲ呼び、十万円荷為替ノコトヲ申聞ス。○山田¹¹⁵参議来訪。宮¹¹⁶山林独立論ノコトヲ談アリテ、やじノ見込ミヲ聞トノコトニ付、廿四日以来之コトヲ話ス。○丹羽雄九郎¹¹⁷・石川¹¹⁸来訪。○夜、条公^ハ招カレ山林局云々ノコトヲ聞度トノ事ニ付、今朝、山田ニ談セシ如ク上申ス。奥¹¹⁹・大槻¹²⁰兩人留守ニ来ル。

六月三十日

晴。早朝、宮島来訪。中野¹²¹、卿ノ命ヲ以テ副長ノコト等ノ談アリ。

又、牟田口¹²²来り、副長ニテ助けくれトノコト談シアリシコトヲ聞ク。山田ヲ訪フ、不逢。直ニ出省。十二字帰宅。午後、会場二行、四字、閉場ノ式アリ。夜、精養軒ニテ、宴会アリ。○夕刻、伊藤来訪。昨日、河野ノ同人宅へ参られ、話ヲ聞ク。○宮じま、松方へ、当々之職ニテ困難スルト語りシコトノ二元因トナリシ事、并ニ中野も他人ヲ局長ニ入レバ却テ宮じま之悦ブトノ事、中野へ兼務シテ助けテくれト頼ミシコトアル等ノコトアリシ。密ヲ河野方伊藤ニ語られシコトヲ聞キ、中〔野〕、牟〔田口〕、申合セノコトヲ確信ス。○今日、中野方牟田口ヲ局長ニスル廻議案、廿四日附ノ文ヲ出シ、やじノ捺印ヲ促ス。

七月一日

条公二行、牟田口ニ局長ヲ命ラルコトニ内決セシ事ヲ示談セラル。出省。夜、奥、大槻、来訪。農務局ニ人物ナキニ付、調査ノ人ヲ遣ス事ニ、牟、中、申合内決セシコト等ヲ聞。

七月二日

出省ス。椈〔樺山〕、卿ニ面シ、荷為替八分ノコトヲ談ス。牟田口山林局長ニ転任ス。夕、青江¹²³・塚原¹²⁴来訪。

七月三日

風。宮じま来話。内務卿へ宮島ノ行きシコトを中氏ノ勸ニヨル△会計収納表ヲ兩人ニ托シ調ブル事ヲ、昨日田〔中芳男〕・宮島ノ催促ニよ

リテ、やじハジメテ承知ス。

△視察委員人数ヲ兩人ニテ、割付ケノ事△廿八の日ニ地理ノ南¹²⁵方局長替代ノ事ヲ談セシ事アリシ成。

七月四日

出省。帰途、北白川宮、独乙会。楯取¹²⁶ヲ訪フ。改良社¹²⁷ノコトヲ聞ク。○朝、山田二行。周布¹²⁸、馬や原¹²⁹ヲ書記局長ニスル云々ノ事ヲ談シ置ク。○十時予算ヲ定ムル事ニ付三〔消〕局長ヲ会シ、談シアリシガ終ニ其俟上申ニナリシ〔消〕。

七月七日

臥床。池田来診。宮ノ事務官・審査部長等ヲ招カル。

七月八日

臥床。夜、高津来訪○小室・久保田¹³⁰・山高来訪。今朝方池田ノ水薬ヲ用ユ。

七月九日

臥床。齒療治。五辻¹³¹、石原、西島¹³²ニ面語ス。

七月十日

臥床。宮じま・武井・白根来訪。小原¹³³来診。今朝、萩原¹³⁴来り、辞表云々ノコトヲ聞ク。

七月十一日

朝、長谷川二行。歯治療ス。

七月十二日

安藤就高¹³⁵来訪。不逢。河野二書状遣シ、十五日¹³⁶に¹³⁵出省之コトト遣ス。夜、家康、鯛船の難ヲ聞ス。

七月十二日

夜、武井・池田来訪。

七月十三日

三輪ノ預リ積物ヲ武井へ渡ス。夕、古橋、盛田¹³⁷ノ両老ヲ県令携来ル。

七月十五日

石原、神原、澄川¹³⁸、母ノピワ弾者来訪。宮、塚、富、和ノ四氏昇役¹³⁹。午後、長崎県令内海¹⁴⁰来訪。前田正名¹⁴¹来訪。辞表并三田ノ事内談アリタリ。○横山、田中来訪。夜、三輪、一弦琴ヲ招来ル。

七月十六日

亡尊母七回忌ヲ営ム。本法寺ニ参詣ス。○牟田口へ譲リ渡セシ馬車代百円、武井¹⁴²に送り来ル。夕、河瀬、来訪。吉田¹⁴²に麻製造ノ事意見書請取。夜、嘯山来訪。画帖其外ヲ書ス。

七月十七日

終日、来客ヲ辞ス。夕、小原氏来診。臥蒲。夜、三輪ヲ招キ祝杯ス。

七月十八日

夜、米友「フレンテ」ヲ精養軒ニ招ク。

七月二十日

出省。虎三帰国。夜、ピワ会ヲ催ス。十二字、解散ス。午後、岩山¹⁴³、上村¹⁴⁴、横川¹⁴⁵、来会。五島砂糖ノコトヲ談ス。

七月二十一日

出省。午後、石川県令来訪。夜半、胃痛、吐瀉ス。

七月二十二日

山脇玄¹⁴⁶。西岸¹⁴⁷に帰京。出省セズ。星鹿毛牡馬ヲ種畜場¹⁴⁸に連シ来ル。

七月二十三日

出省セズ。長与¹⁴⁸来話。星鹿毛ヲ九段ニ遣ス。

七月二十四日

九段二行。午後、三浦¹⁴⁹へ行「スパールガツセ」会。

七月二十五日

快気。出省入。卿、出省早退せらる。午後、藤田一郎ヲ訪ひ、夜十字前、帰宅ス。

七月二十六日

出省。卿、出省ナシ。平田、来着。防火線建築費指令ノ事、内務省ニテ異論アルコトヲ聞キ、松田¹⁵⁰ヘ投書ス。夜、武井、来話。博物館員云々ノ事ヲ聞ク。

○卿、安田ノ保証人と懇意ナルヲシテ、商法ヲ営ムコトヲ聞ク。○一昨ニ土曜日ヲ茂木出テ、帰ラス。今晚、無事帰宅ス。○内ム卿ヘ投書。トミオカノ事其外申遣ス。

七月二十七日

朝、松尾¹⁵¹、手塚¹⁵²来話。資本云々。○吉富¹⁵²来訪。

出省。○ザーゲル¹⁵³氏来省。○杉¹⁵⁴種畜場ヲ宮内省ヘ譲リ受ル事、取消ノ事申来ル。○千住製絨所ヲ元ノ俣¹⁵⁵下、工作所并残品ハ¹⁵⁶下渡別ニ広告有コトニテ、昨日上申ニナリシコトヲ今日ハジメテ知ル。当年、共進会ヘ派出員ノ事。○ギフ委員兩名来リ、別ヲ告リ。○午後北宮二行、副総裁以下手当ノ事、書面ニテ上申シ置。○杉ヲ訪、不逢。○六字¹⁵⁷小信〔小室信夫〕ヲ小梅村¹⁵⁴ニ訪フ。長与に談シ製茶ノ事ヲ話ス。○製麻器械着手ノ事ハ仕分人ニ談スルコトニ話シ置ク。夜十一字半帰宅ス。

七月二十八日

出省。太政官に出、各場¹⁵⁸下¹⁵⁹ゲノ事等ヲ談ス。夜、松野¹⁵⁵来話。服部一三¹⁵⁶ヘ地震会、本年分八円ヲ渡ス。

七月二十九日

早起。不忍池ノ蓮花ヲ観ル。○出省。卿は退出後ナリ。○午後一字、精養軒ニ於テ日下¹⁵⁷ノ招ニテ午餐ス。今朝、盛田老人、和田、遠浪¹⁵⁸来訪。

七月三十日

八字、御出門。東北御巡幸。千住駅ニ奉送シテ午後二字帰宅ス。古橋老人来訪。晩去。日野宗春¹⁵⁹来話。福島県令ヘ村田¹⁶⁰、中村¹⁶¹、シゲオカ¹⁶²原・井手原・手岡ノ三原野¹⁶²拜借願ノ事ヲ申遣ス。

七月三十一日

九段二行、平田と午餐ス。○山脇ヲ訪。夜、平田ニテ晩食ス。

八月一日

出省。今日¹⁶³二十日、暑中休暇ノ事、卿と談示ス。内板淳徳¹⁶³来訪。ツガル原氏¹⁶⁴式回来訪。夕、田中来訪。速水¹⁶⁵来訪。夜十字去ル。

八月二日

昨夜十字、一休。井上省之来訪。津田要¹⁶⁶、蝦夷地¹⁶⁷ノ帰京ニ付来話。

博物館ニ会シ、移転ノ事等ヲ談示ス。昨日、条公九段ノ家移転アリシ
コト報知アリタリ。午後、嘯山来話。○五字ノ長与同行、小室ヲ訪
ひ、夜十一字帰宅ス。

八月三日

雨。午後晴。九段土俵ニ移ル。終日、内居。移転の仕舞ス。午後五字
過、堂憲公¹⁶⁷の廟ヲ拜ス。

八月四日

雨。大田黒¹⁶⁸来訪。○福永¹⁶⁹来ル。清水用手跡ヲ示ス。午後、博内事
務局ニ行。夫^ル九段ニ行、宿ス。既ニ愛媛県令¹⁷⁰来訪。授産、談シテ
十一字去ル。

八月五日

晴。僉家九段ニ移ル。

八月六日

宮内省ニ出テ、皇女¹⁷¹ノ御降誕ヲ祝ス。青柳・八木¹⁷²出張ノ事ニ付、
来話。

八月七日

終日、内居。樋田、上野国重、神原来話。

八月八日

終日、内居。

八月九日

終日、内居。宮島、昨夜、通水式¹⁷³ノ帰京ストテ来話。夜、木村、長
岡来訪。庭池上部ニ昨日^ル着手ス○下水樋掘、来ル。○木村正幹^ノ多
摩川行ニ付、百円借用ス。

八月十日¹⁷⁴

晴。六字前、東京ヲ発シ、七字上高井戸、武権庵ニ休憩ス。九字、府
中中やニ着ス。松連寺ニ登リ、玉川ニ浴シ、午后〔消〕二字府中ニ帰
宿ス。

20. 高井戸武権や。10. 松連寺。30. 西瓜其外。27. 奥戸渡¹⁷⁵。3.
中河原¹⁷⁶。50. ニツやへ手当。261. 府中中や払。60. 中や茶代。

八月十一日

晴。六字、府中中やヲ発シ、玉川ヲ渡リ、日の駅ニ小憩シ、九字前、
八王子角喜ニ着。八王子^ノ人力車ニテ十字半コマジ¹⁷⁷村花やニ着。午
飯ス。午後三字、花やヲ発シ、五字前、高尾山寺ニ着宿ス。

6.5. 玉川渡シ。10. 日野駄菓代。180. 府中^ノ八王子迄車代。3. 浅川¹⁷⁸
摺ニ銭。20. 八王子角喜茶代。75. 八王子^ノコマじむら迄人力代。3
円コマジ花や午餐代。

37. コマジ^ノ万吉へ人足代払。3. 円高尾山寄付。

八月十二日

晴。薬王院書院ヲ出テ「ミハラシ」ニ登リ、八州ヲ望ミ見ル。午飯後、ビハノ湯ニ軒茶屋ニ休憩ス。其後コマシ^マ花屋ニ休ミ、晩食シテ、黄昏八王子角喜ニ宿ス。

十日⁴⁸⁸。十一日⁷³¹。薬王院へ謝礼。2.00。高尾山小宴、コマジ迄³⁰。二軒茶ヤ¹¹。花屋払^{1.36}。コマジ⁶八王子迄車代⁸⁰。八王子角喜払い^{1.16}。同家茶代⁷⁰。八王子⁶原町田²⁷⁰迄車代⁴。21.34

八月十三日

晩、小雨。午前五時角喜ヲ発シ、「ヤリミツ」・〔消〕小山田・キソヲ経、八字、原町田二本吉田¹⁷⁹ニ着ス。藤沢を経、江島、岩本楼¹⁸⁰ニ着ス。

八月十四日

江しまニ滞在。江島百四番地、井上亀次郎。

八月十五日

江しまヲ発シ、カマクラヲヘテ、夜十字過帰宅。

八月十六日

終日、不出。山高来訪。午時、雨。

八月十七日

終日、不出。午後、益田来訪。山県来会。夜、雨。

八月十八日

終日、不出。樋田・藤一〔藤田一郎〕来訪。中村親子来着。

八月十九日

終日、不出。宍戸¹⁸¹工ム局長^務来訪。フレンテ来訪。中川堂来リ。戸田家売家ノコトヲ談ス。

八月二十日

池田¹⁸²・浅田¹⁸³来訪。午後四時、フレンテノ招ニテ、スミヤニ行。陶器其外ノ珍器ヲ観ル。十一字、帰宿ス。大杉、藤村、勝津・石津・勝莊〔勝津莊太郎〕へ遣ス書状ヲ認ム。

八月二十一日

亡尊母七回忌正日。終日、内居。

八月二十二日

山県へ美濟録、持セ遣ス。今日⁶出省。卿不勤。木村〔正幹〕ヲ会社ニ訪、不逢。朝、河村洋与、半井栄¹⁸⁴・熊野¹⁸⁵其他来訪。夕、山県来話。嘯山来話。夜、原田勇来訪。

八月二十三日

早天、木村正幹ヲ訪。当月十日借用せし百円ヲ返納シ、本月分つきじ掛金ヲ頼ム。出省。卿、出省。岡田良一郎¹⁸⁶、都崎某¹⁸⁷二面会ス。夕、吉村正義¹⁸⁸来訪。中村母子浜丁ニ帰宿ス。雑種物ヲ農学校内へ移ス。

八月二十四日

出省。午後、伊藤ニ会シ、集互会創立ノコトヲ談ス。

八月二十五日

朝。出省。

八月二十六日

出省。朝、山県ヲ訪。岩山・奥、兩人来リ。省中云々ノコトヲ談ス。

八月二十七日

出省。卿、出省ナシ。嘯山・羊石来話。

八月二十八日

村田下代々木ニ行。夜、帰宅ス。

八月三十日

出省。太政官ニ出。賞与書付ヲ受取。

八月三十一日

出省。太政官ニ出。博覧会賞与金ヲ山高ク二百円請取。

九月一日

山本、昨日、木曾ニ出京トテ来話。○河瀬真孝¹⁸⁹来話、午食ヲ共ニス。○出省セズ、夜、松野来話。

九月二日

上野事務局ニ行。一統へ賞与ノ書附ヲ渡ス。不出省。長七¹⁹⁰来リ。八畳萩ノ夕、キニ着手ス。

九月三日

村田敢来リ。困難ノ内情ヲ訴フ、式十円ヲ貸ス。内海羊石同断、十円ヲ貸ス。出省ス。

九月四日

終日、内居。

九月五日

出省。早天、山県ヲ訪ヒ、一昨日、高輪集會ニテ選幸ノ上、一大改革ノ内議アリシコトヲ聞ク。今日ニ牛乳ヲ服用ス。○夜、得庵¹⁹¹来訪。八戸来リ、明朝ニ大坂行ヲ告ク。

九月七日

出省。卿、出省。朝、山県来訪。伊三郎¹⁹²ノ赴事、青木へ遣ス書状ヲ示サル。山県、鳥尾ニ行、内閣上書一件等ノコトヲ談示セラレ。

九月八日

出省。勝津〔兼亮〕へ国重政亮¹⁹³ノ事ヲ入校ノ事ヲ申遣ス。ナラ原¹⁹⁴へ返書ス。六字三十分、事務官補三十五名ヲ精養軒ニ招ク。○田中屋へ先生¹⁹⁵肖像ノ事申遣ス。

九月九日

早天、得庵来リ。云ク、今日、三浦〔梧楼〕来訪、時勢ノ切迫ナル余、三ヶ条ノ建言センコトヲ談シ、三浦八河瀬〔真孝〕ニ行、余ハ子ヲ訪フト。コノ事ニ付、太政官ニ行、伊・両山ノ三氏〔伊藤・山県・山田〕ニ面シ、山県同行シテ午後一字、鳥尾ヲ訪ヒ、山県、一人ノ論ニテ全体ノ論ニナキコトヲ説明申シ、得庵ハ建言書ヲ出サヌコトニ確答ス。

九月十日

雨。出省。午後、紅葉館ニテ日本農会第一小集会ヲ催ス。

九月十一日

山清、中条来訪。長岡、島地ヲ訪。長与ニ行。夜、平田其他来訪。陳楼ニ山県・桂¹⁹⁶ト会シ、今夕、鳥尾、椛山莊¹⁹⁷ニ行、再ビ建言書ヲ出

スコトヲ山県ニ告ケ、兩人激論セシコトヲ聞ク。又、昨夜、二十日会

ニテ山県ノ鳥尾ニテ◇

柴田¹⁹⁸へ家畜伝染病ノ事ヲ頼ム。

◇ニテ三浦へ談シラレシコトヲ幹事中心へ演述セシコトヲ聞ク。

○鳥尾等ノ△建言書草案ヲ山県方請取。武市¹⁹⁹来訪第二回。吉本方十二円請取。半天。

九月十二日

朝六字、条公ニ行。四氏²⁰⁰、今日建言ノコトヲ申上。夫方伊藤ヲ訪ひ、十一字出省ス。

九月十三日

出省。午後、山県ヲ椛山ニ訪。昨夜、西郷²⁰¹ノ処へ諸氏集会アリタレ共、決定セヌコトヲ聞ク。

九月十四日

昨夜半方風雨。出省。

九月十五日

出省。午後、外務省へ行。夜、野靖²⁰²来宿ス。植木や三名来リ、風損ヲ補フ。

九月十六日

卑朝。長谷川準也²⁰³・林議官²⁰⁴来訪。山県来話。出省。中村家、買取ノ事、今村直心²⁰⁵を七百円ノ事、木村をノ返事アリ。

九月十七日

出省。太政官二行。博覧会金流用等ノコトヲ伊藤へ談ス。平田へ貯金会ニテ集会ス。例会ヲ福地、引請。

九月十八日

武井ヲ訪ひ、中村、買家ノ金七百円借用ノコト頼ム。午後、間野²⁰⁶・藤一來話。

九月十九日

不快ニテ出勤セズ。つきじ掛金、吉村へ頼ミ柏村²⁰⁷へ払。仏中へ本家払ノ売ノコト申シ遣ス。土地ハ又五郎へ頼ム、及代リニ柑橘ノ収入丈ケヲ同人ニ遣スコト申遣ス。葛野郡川嶋川、革嶋瀬左衛門²⁰⁸、上京否ノ事申遣ス。

九月二十日

終日、臥床。寺崎²⁰⁹来話。曇天。建野²¹⁰知事、商人取締法可然事ヲ申遣ス。

九月二十七日

上等会開場。勸農義社質問会。

九月二十九日

快気、出省。午後、勸農義社上等会議場二行。同会ニテ原案廃止セラル。塚原・平田来訪。武井を中村土地農場ノ為メ借入レル七百円(補カ利子ヲ引)ヲ願取中村へ渡ス。夜、田安門矢倉失火。静、椀山二行。病氣見舞ノ為メ。先生写真画像ヲ田中屋ニ送り出ス。

九月三十日

出省。朝、柴田ヲ訪。獣疫規則ノ草案ヲ検閲ス。夕、田中²¹¹、奥、藤田一郎来訪。

十月一日

晴快。夜、雨。出省。午後、山崎大書記官来リ。時勢云々談アリ。富岡行ニ付、卿今日を出省ナシ。夜、山清来リ。今日、局長〔牟田口〕ト木曾調査費ノ事ニ付激論セシコトヲ聞。

十月二日

小室ヲ訪、不逢。山本と冬木社ヲ訪ひ。夜ニ入帰宅。

十月三日

河野、富岡ニ出張。奥、随行ス。

十月四日

出省。即決ニテ、午後二時前帰宅。

十月五日

不出省。

十月六日

不出省。

十月七日

終日、不出。

十月八日

終日、不出。夜、山県、椛山²¹²旧宅へ移宅。西田²¹²来訪。久原²¹³来訪。

十月九日

曇。終日、不出。夕、藤田来談。夜、湯地来訪。

十月十日

全快、出省ス。今日ヨリ岩倉²¹⁴を譲受ケ之馬車ヲ用ユ。

十月十一日

休暇。午後、御還幸。赤坂へ奉迎ス。有〔栖川〕・北〔白川〕両宮、参賀ス。夜、野むら・平田、伊巳〔伊東巳代治〕来訪、十二字去ル。野むらト山県ニ行。今晚、諸参議、上書御採用アリシコトヲ聞キ、歓喜ニ耐ヘズ。暁三時帰宿ス。

十月十二日

菊地、寺崎、佐藤、田辺嘉三郎²¹⁴来訪。野村、昨夜来着。今朝、長岡来訪。野むら横ハマニ帰ル。出省。卿ノ一昨夜帰京、今朝出省セラレシコトヲ聞。太政官ニ出テ、大隈辞表を今朝持参、両大臣ニ出サレシコトヲ聞。船越²¹⁵来話。二十三年ヲ期シ国会ヲ開らくノ勅アリ。

十月十三日

午前、雨。寺崎、垣田²¹⁶来訪。出省。河野、昨二日、トミ岡²¹⁷を帰りハジメテ面語ス。勸農義社、願却下スル²¹⁷。能ハサル理由を論弁ス。服部長七、三州行ニツキ、国貞へ添言ス。○今日午後、大隈参〔議〕辞職セラル。○夜、平田来訪。三百円ヲ同人²¹⁸を借用シ、証書ヲ遣シ置ク。

十月十五日

夜、山田と有宮ニ行。

十月十六日

井上来り。山県と会シ、一昨日来之紛紜ヲ談ス。夜十一字方山県と黒田²¹⁸二行。佐々木²¹⁹等、弾正官²²⁰之設置ヲ希望スルコト二付、集議曉に激ス。

十月十七日

雨。神嘗祭²²¹。七字四十分、黒田ヲ去ル。西郷・山県、馬車覆リ疵ヲ負フ。前田、河瀬真孝来訪。

十月十九日

出省。河野²²²義社ノ却下ハ、是非見込通り一応願人へ下ゲルコトヲ懇談セラル。十分不同意ヲ中立テシ後、コレ迄之不都合ヲ陳述ス。○夜、山県之病休ヲ訪フ。

十月二十日

早朝、伊藤二行、大山²²²外国行不可然事ヲ述ブ。午後四字迄、伊藤ニ在リ。夫方福地²²³・田中ト井上ニ会シ、夜、十二字後帰宅ス。河野、農商務卿ヲ免ゼラル。不出省。

十月二十一日

参事院ヲ置キ、各参議²²⁴ヲ諸省卿ヲ兼ヌ。西郷、農商務卿拜命。スハールカツセ集会、桂来会。

十月二十二日

出省。朝、北宮へ伺ひ、夫方西郷ヲ訪フ。

十月二十三日

出省。

十月二十四日

出省。十日会、臨時会。独乙会ノ事二付、桂、平(田)、本(尾)、荒川、午後、来会ス。夜、武市啓、来話。英二王子²²⁴来着。午後、太政官ニ出テ伊(東)書記官ニ面談ス。

十月二十五日

小雨。赤羽、内田、石田、来訪。夫方出省ス。午後、伊藤²²⁵藤田建議書印刷シタル分、福地昨夜持参。驚人云々申来ル。藤田・奥来訪。延邊館二行。今朝、長崎県の本多親基²²⁵来ル。一昨年来、種牛羊²²⁶の況景ヲ聞ク。六戸工務局長辞表ヲ出ス。曾根²²⁶同断。三局長²²⁷ノ事、奥ヲ以テ卿(西郷)ニ申入レシ置ク。

十月二十六日

出省。夜、仏学生山口来訪。今朝、△金堀区ノ事ヲ加藤²²⁸ニ談ジ、讓り渡スコトニ(消)勝屋氏ニ話ス。

十月二十七日

晴、山県二行。伊藤病氣ノ事、并ニ昨日、井上来訪ニテ黒田方払下一
条、西郷其外へ書状ヲ以テ意見申遣セシコトヲ聞。○伊藤二行。井
上、中井²²⁹在リ。真中²³⁰ノ事、并ニ昨日藤田ノ来リシコト、且、菊池
外式名²³¹ノ建白書ヲ見ル。○夫方西郷二行。武井ヲ山林、富田²³²ヲ
工務局長ニスルコトヲ決ス。○南ヲ商務局長ニスルコト井上方談シア
リシコトヲ西郷ニ話シ置ク。○今晚の夜会ヲ辞ス。藤田二行、キク池^菊
ノ建白ノコトヲ談スルコトニ決シ、夜、前田ヲ訪。不逢。夜八字過、
来訪、十二字、去ル。○マイエツト²³³来訪。○真中ヲ呼び公務、郵便
取扱ノ事并ニ同人身上ノ事ヲ委シク聞ク。

十月二十八日

昨夜初霜ヲ返シ水青ヲ用ユ。昨夕、スミ木〔鈴木利亨〕へ小山²³⁴書
記官へ諭旨ノコトヲ談示ス。

十月二十九日

出省。

十月三十日

晴。曇。松方ヲ三田ノ宅ニ訪ひ、前田ヲ本省ニ転スル事、其外ヲ談
シ、夫方日本農会、議員会ヲ華族学校ニ開クニ付集会。夜二入り
閉場、議員ヲ三河屋楼ニ招キ晩食ス。

十月三十一日

晴。早朝、榎本²³⁵来リ、真中の冤罪ヲ述ブ。○芳川²³⁶来、青江ノコト
ヲ談ス。○出省。小室。○渋沢²³⁷二面会ス。○前田来リ、羊行^羊ニ付、
商務局長ニテ渡海センコト希望ス。右ニ付松方ヲ訪ひ、夫方西郷二
行。伊藤、大山、樺山来会。四時前、西郷ヲ出テ精養軒二行。独逸学
共会²³⁸設立ノ事ニ付、集会スル者五十四名。夜十字半帰宅ス。○西郷
方書状来リ。明朝立寄りくれトノ事。

十一月一日

古沢来訪。西郷ヲ訪ひ。(河村²³⁹二逢フ)前田、昨日来リ。書記局之
書記官ニテ洋行ノ事ニ決ス。領事兼務ノ内願アルトノ事ニ付、外務省
二行。午後二字過迄、待チテ井上ニ逢フ。前田ノ事ハ、コレ迄ノ通り
テ派出スルコトニ松方と約束セシトノ事ニ付、本省二行。夫方又西
郷二行、右ノ始末ヲ談シ、夕五字帰宅。前田来リ待ツ。木村・平田
来訪。樋田方山林会ノ校正規則書、送リ来ル。

十一月三日

天長節。日比谷行、夫方参内ス。夜、山県ヲ訪フ。

十一月四日

朝、七字東京発シ、片山、惣太〔勝津莊太郎カ〕、と共ニ八王子ノ共
進会ニ趣ク。八王字、横山町、谷合弥七²⁴⁰方に宿ス。野村、楯取、片
山、磯貝²⁴¹等ニ面会ス。夜方雨。県令方招ニテ若松楼二行。

十一月五日

繭糸織物四県²²共進会の授与式二行。夜、宴会。終日、雨。

十一月六日

晴。朝十字、宿ヲ出テ四県人民方の宴会ニ招カレ、午後一字半、八王子ヲ発。夜ニ入り帰京ス。昨夜乃ノ大雨ニテ玉川ニ留。午後乃明ク。今日乃友吉、松手人ニ来ル。

十一月七日

晴。塚原来訪。出省セズ。終日内居。友吉、松手人ニ来ル。

十一月八日

晴。出省。帰途、西郷ヲ訪ひ、五字帰宅。夫方前田ヲ訪ひ、ピワの彈ヲ聞キ、夜十字過帰ル。友吉、来業。

十一月九日

晴。速水来リ。昨日、荷預所へ出セシ書面ヲ示ス。南保、来訪。十一字、出省ス。浦和の縁日ヲ祝ス。友吉、来業。

十一月十日

出省。退省掛ケ、つきじニテ楯取・杉・野村と晩食ス。静、今日乃源氏会²⁴³二行。

十一月十一日

出省。夜、宮内卿²⁴⁴の招ニテ芝^榎り宮ニテ晩食ス。

十一月十二日

出省。午後、日本農会ヲ華族学校ニテ開設ス。

十一月十三日

茂木、弥一²⁴⁵と鬼子母神ニ行。夫方ダンゴ坂、観菊。上野ニテ晩食シ帰ル。平田、来話。ドメーネン²⁴⁶ノコトヲ談シ十二字去ル。昨夜、夜、マサノ友人来リ。宮ノ下土地ノ地図ヲ示ス。

十一月十四日

出省。小倉来訪。○太政官ニ行。新事務章程ノコトヲ伊藤ニ談ス。土器騎馬訓練²⁴⁷ヲ船越ト共ニ観ル。十字前迄、船越ト時事ヲ話ス。

十一月十五日

出省。大村²⁴⁸先生祭事。夫方高輪邸、例会ニ行。夜ニ入り帰宅ス。

十一月十六日

出省。午後、三田育種場、日本農会幹事会。夜ニ入、帰ル。

十一月十七日

出省。午後、田光²⁴⁹来訪。夜、中条来訪。

十一月十八日

出省。紅葉館二行。例会終回ス。夜、尾川²⁵⁰父子来会。秋、養女ニスルコトヲ決ス。十月三十日分、二十六円二十四錢、三河やへ十九人分洋食代。農会、各員晩食代、農会を取替之分長瀬²⁵¹へ渡ス。

十一月十九日

出省。夜つきじニテ、ケルネル²⁵²氏ヲ招ク。

十一月二十一日

出省。井上参^識来訪。黒田二件二付、山県ヲ椛山ニ訪。午後、上野ニテ、山脇引受の例会ヲ催ス。本尾へ二百円返上ス（昨年を借用ノ分）（平田を五百円借用ノ内ニテ）。夜、平田、伊巳来話。

十一月二十二日

齒痛ニテ、出省セズ。

十一月二十三日

新嘗祭ニ付休暇。夜、祭事ニ参ス。

十一月二十四日

出省。西郷二行。山ノ卿ノ事件ヲ述べ、太政官二行、伊藤ニ面会ス。夜、益田来話。

十一月二十五日

出省。朝、天龍寺、松山²⁵³、吉田俊人、和田、木原、佐野来訪。

十一月二十六日

出省。中村・田中・桂の金五十円、武井を以テ、返金ノ部ニ加へ入ルコトヲ頼ム。午後、桂其外会シテ、独逸共会規則校正ス。夜、長岡、野村、来談。

十一月二十七日

晴。終日、内居。

十一月二十八日

晴。夜、雨。出省。山県、椛山を隣家ニ帰ラル。夜、大槻来訪。山県負傷後ハジメテ、伊巳、来談。早天を西郷二行。井上、仲井^中、松方来会。午後二字過、出省ス。

十一月二十九日

雨。出省。シゲ野²⁵⁴第二女葬式。○帰途、三浦老人ヲ番町ニ訪。織田完之²⁵⁵来訪。夜ニ入、野村靖来会。伊藤参議山県ニ訪レシ成。山〔田〕

ヲ参事院長、伊〔藤〕ヲ元老院、黒田ヲ農商務云々の談アリシコトヲ野村が聞ク。今日、昨、岩崎^新矢之助・野村へ来訪セシ成。

十一月三十日

朝が野村と山県へ行、三浦辞表出入万事二付、談示ス。井上来会。黒田ノ事が開拓使延期三年、可否之論二付、夜十一字過迄論談ス。夜、大木、晩食ヲ辞ス。

十二月一日

出省。晴。野靖ト井上ヲ訪。伊、西、松、来会。夜、井上、会同スルコトヲ約シ、午後、出省。帰宅後、金原²⁵⁶来話。明日、商卿。夜、七字が山県行、野靖同行、井上二行。西、大〔山〕、松、椛〔樺山〕、集会。延期三ヶ年ノ事二付、廃使ノ論決ニテ、明日、西郷、三大臣へ上言シテ、否仰クコトニ決ス。一字、帰宅ス。

十二月二日

曇。出省前、山県二行。昨夜ノコトヲ談シ、且、三浦辞〔消〕可ナルコトヲ話ス。

十二月三日

出省ス。午後、農會議員会ニ付華族学校二行、夜二入り、帰宅ス。夜、野靖ト山県ヲ訪、伊藤ニ困難ヲ助ケシ為ノ状況ヲ聞ク。やじ、明日、伊藤ヲ尋ネテ同人ノ意思ヲ聞クコトヲ約シテ去ル。山県ニテ堀

江²⁵⁷二逢ヒ三浦ノ帰京後、狂言ヲ吐きシコトヲ聞ク。

十二月四日

雨、伊藤ヲ訪、不逢。花房²⁵⁸、種田²⁵⁹来訪。夜、中精来訪。午後、晴。

十二月五日

平田、西郷・野靖来訪。西郷来話中、吉井²⁶⁰が開拓廃止ノ事二付、中裁論ニテ委員ヲ組シ云々ノ事ヲ吉井が岩公へ建言スルコトヲ聞リ。野靖ト山県ヲ尋フ。井上来会。開拓廃止論ハドコ迄も不同意ノ事ニ決ス。午後、二字、出省。四字、有栖川宮^二三行、過日来、開拓使廃止論の顛末ヲ上言ス。今日、奏聞ノ上ニテ、明日、参議へ御下問ノ事ヲ聞ク。

十二月六日

朝、山田ヲ訪、不逢。井上二行、野村在リ。開拓廃止之事伊博〔伊藤博文〕不満〔消〕云々ノコトヲ聞。井上ハ前日が之上言ハ取消スコトニシ、大臣ニ送ム云々トノ事ニテ、野村ハ伊藤二行、やじハ山県ニ歸ル。岩公御来会ニテ、昨夕ノ會議ニテ士族授産ノ為メ、七ヶ年間八十万円宛々々、宮内省が支出之事ニ決ストノコトヲ聞。野村、伊藤が歸り来リ。廃止ノコトニ付テハドコ迄も共力シテ尽ストノコトニテ事定ル。夜、大浦²⁶¹、来訪。

十二月七日

勸農義社会ニテ河村ノ楼ニ会入。

十二月九日

出省。士族授産ノ意見書、貯蓄金ノコトヲ纏シ書ヲ西郷ニ渡ス。午時
方駒場農学校ニ行、参時、帰宅ス。サトウ砂糖分離器械運転。夜、伊巳来
談。二本松ノ山田²⁶²来話。

十二月十一日

午後方若林、先生之墓²⁶³ニ詣ス。

十二月十四日

出省。夜、渋沢、益田²⁶⁴、渡辺藤吉²⁶⁵来話。

十二月十五日

朝、平田来話。出省。西郷、駅通局ニ巡視。午後、四字、地方官ヲ芝
離宮ニ招ク。今日、黒田御病氣ニテ出頭セス、御噂ニナル。

十二月十六日

出省。午後、太政官ニ行。士族授産ノ内議ニ預ル。

十二月十七日

大雪。朝、山県来話。出省。四字前方離宮ニ行、地方官ノ招ニテ、大

臣参議集談。伊藤参議之演説アリテ、満場ノ悦感ヲ為ス。

十二月十八日

晴。山県・中精・弥一同行。若林、先生ノ墓ニ詣テ、紅葉館ニ会シ、
夜ニ入り、帰宿。藤村県令²⁶⁶、来話。十一字去ル。

十二月十九日

晴。出省。安達²⁶⁷・桜井弥五平²⁶⁸・神山²⁶⁹来訪。午後、四字過方紅葉
館ニ行、藤田ノ招ニテ、松方・佐々木、集会ス。義社ノコト実施ノコ
トヲ談ス。西郷、伊藤不参。○つきじ会今月第一回ハ、林取当リ、第
二回来一月分ハ佐藤へ落札。夜、沼津の江原蘇六²⁷⁰外傭人来話。

十二月二十日

出省。夜、山県ヲ訪ひ、夜十一字帰宅。

十二月二十一日

天野、中条、速水、和田、野村、来訪。西郷と地質課ニ行。夫々目黒
別荘ニテ午食、駒場農学校へ巡覽済ミ。夜八字帰宅。下田、山県、三
好、田中の婦人²⁷¹、来集。

十二月二十二日

西郷と、商法講習所ヲ順見ス。午時、出省。五字前、帰宅。八尾²⁷²、
大倉喜八郎²⁷³来訪。夜、風。

十二月二十三日

朝、渡辺²⁷⁴福岡県令来訪。北海道移住士族ノ困難ナルコトヲ聞ク。出省。

十二月二十四日

出省。午後、レース教場ニ行。夫、大倉組ニ行、ペルシヤノ敷物ヲ見ル。夜、天野虎雄²⁷⁵来話。津田要、江原兩人ニ添書ス。今朝、岩²⁷⁶ニ行、福岡士族拜借金ノ事ヲ談ス。

十二月二十五日

晴。益田、佐々木、小林秀知²⁷⁶来話。午後、伊²⁷⁷、長野県令²⁷⁷来訪。終日、不出。

十二月二十六日

曇。出省。午後、山²⁷⁸二招カレ、夜十一字帰宅。北垣²⁷⁸と論談ス。

十二月二十七日

晴、萩尾○井上甚太郎²⁷⁹○ス、木○来訪。午後、野村ト西郷ニ行、三菱ノコトヲ談ス。○今日、西郷・河村ニ命アリテ、開拓使ノコトヲ(老力年官ニ取調ラベニ云々)黒田ニ伝ラる。

註

- 1 大隈重信。佐賀、参議。
- 2 山県有朋。長州、参議・陸軍参謀本部長。
- 3 第二回内国勸業博覧会。於上野三月一日〜六月末。(年表)
- 4 佐々木太郎。静岡県十等警部。『静岡県職員録』
- 5 榑山資紀。薩摩、内務省警視局大警視。(榑山日記) 一月七日条。
- 6 松方正義。薩摩、内務卿。
- 7 村木良蔵カ。長州、内務省庶務局六等属。
- 8 広島、漢学者、教育者。(明大)
- 9 和田維四郎。若狭小浜、内務省勸農局准判任、地質学者。『和田維四郎』(公)
- 10 農務省地質調査に関わるお雇いドイツ人、エドムント・ナウマン、ゲオルグ・リープシエル。(伊藤文書) 五、二六〇頁。(刊品文) 一、三九二頁。(公)「講談社日本人名大辞典」
- 11 岩手県令。大分。(公)
- 12 布施清介。長州、広島県七等属。(防長) (刊品文)
- 13 右田貞見。熊本農民。(公)
- 14 荒井郁之助。幕臣、内務省山林局権少書記官。(明大)
- 15 宮田栄助カ。常陸笠間藩、製銃工場を創業。後身はミヤタサイクル。(明大)
- 16 この日、旧金沢城の陸軍第七連隊本部が失火により焼失。『石川県史』四、一〇九九頁。
- 17 中島精男。長州、内務省地理局御用掛准判任。品川義妹婿。
- 18 泉川健。愛媛県山田香川郡長、讃岐製糖業振興目的の興民社社長。『香川県の歴史』二七一頁。
- 19 品川妻。静子。
- 20 渡辺千秋。信濃高島藩。(明大)
- 21 三条実美。公卿、太政大臣。
- 22 鳥山重信。長州、内務省から長野県少書記官として二四日付赴任。(公)

- 23 中条政恒。山形、福島県大書記官。この時期は在福島。(公)
- 24 青木周蔵。長州、在ドイツ公使。
- 25 平田東助。山形、太政官会計部少書記官。品川義妹婿。
- 26 焼失一万二千戸、明治最大の大火。(年表)
- 27 勝津兼亮。長州、品川岳父。(刊品文)
- 28 三条公恭。実美養子、後、離籍。『尾崎三良日記』
- 29 三月十三日、ロシアアレキサンドル二世暗殺。(年表)
- 30 来日していたハワイ皇帝カラカワの出家。(明天)
- 31 勝津壮太郎。長州、妻静子兄。この頃、福島に居住。(刊品文)
- 32 国重正文。長州、京都府大書記官。上京中。(公)
- 33 木村正幹。長州、三井物産副社長。(防長)
- 34 武井守正。姫路藩、農商務省会計局長。
- 35 三輪義方。東京、元老院八等書記。
- 36 河野敏鎌。土佐、農商務卿。
- 37 佐野理八。滋賀、二本松製紙工場長。『福島百年の人びと』
- 38 正しくは安斎宇兵衛。福島、二本松製紙社長。『福島百年の人びと』
- 39 明治天皇母、英照皇太后。
- 40 山本清十。長州、六月農商務省山林局権少書記官。
- 41 熊本、彫刻家。『大日本人物誌』一八頁。竹富嘯山とは親友。『内海羊石翁詳伝』
- 42 正しくは精磁会社。佐賀県有田町に明治十三年に後述の辻・手塚らに設立された磁器製造会社。(日本陶磁辞典)
- 43 正しくは川村迂叟。東京の商人、栃木県蚕糸業の指導者。(明大)
- 44 藤田一郎。栃木平民、元宮内省御用掛・勸農義社創立者。(明大)
- 45 松本鼎。長州、熊本県大書記官、博覧会のため上京。(公)
- 46 近藤幸止。三重亀山、内務省庶務局権少書記官。
- 47 ドイツ銀行制度の研究會。スパールカッセ會、貯金會とも記載。『井上毅のドイツ化構想』一六六頁。
- 48 多田好門。京都・元岩倉具視の臣、太政官司法部少書記官。(明大)
- 49 荒川邦蔵。長州、外務省御用掛。
- 50 本尾敬三郎。大阪、外務省権少書記官。
- 51 北白川宮能久。内国博覧會事務総裁、陸軍參謀本部歩兵中佐。(博覧會)
- 52 桜田治助力。歌舞伎作者名取四世。『歌舞伎人名事典』
- 53 島津忠義。旧薩摩藩主。(明大)
- 54 山高信離。幕臣、農商務省書記局少書記官。(明大)
- 55 原田宗助。薩摩、海軍大尉兼内国勸業博覧會審査官。(博覧會)「事務局員及び審査部人名表」
- 56 手塚龜之助。佐賀、陶業家。精磁会社を創設。「明治大正人物辞典」
- 57 辻勝蔵。佐賀、陶工。有田燒窯元当主。精磁社を創設。『美術家人名辞典』
- 58 島地黙雷。長州、本願寺派僧侶。(防長)
- 59 田中治兵衛。京都、出版者。品川編纂の松陰遺稿集を準備中。(刊品文)
- 60 佐々友房。熊本、国権運動家。(明大)
- 61 高原惇二郎。熊本、宮内省雜掌。
- 62 湯地丈雄。熊本、農商務省書記局六等属。
- 63 勝間田稔。長州、内務省取調局少書記官。
- 64 池田正助力。長州、陸軍中尉、士官学校校長伝令使。
- 65 佐野常民。佐賀、大藏卿。
- 66 三浦梧楼・愛子夫妻。長州、陸軍中将西部監軍部長。(華族)
- 67 石井邦猷。大分、内務省監獄局長。
- 68 故大久保利通。薩摩、内務卿。十一年五月十四日暗殺。(明大)
- 69 茂木百太郎。長州、後、参事院書記官。
- 70 白根専一。長州、内務省庶務局長少書記官。
- 71 桂二郎。長州、農商務省農務局御用掛准判任。桂太郎弟。
- 72 故毛利敬親。幕末時長州藩主。正しい贈名は「忠正」。「もりのしげり」二三四頁。
- 73 樋田魯一。大分、農商務省書記局二等属。
- 74 青柳忠一。秋田、農商務省書記局一等属。
- 75 総裁北白川宮、副総裁内務卿松方・大藏卿佐野・農商務卿河野。(博覧會)
- 76 鈴木利亨。幕臣、農商務省商務局少書記官。
- 77 正しくは山中福永。静岡県士族。『埼玉県職員録』三頁。

- 78 長岡義之。長州、会計検査員一等検査官。
- 79 日本地震学会。上野教育博物館で会合が行われた。品川も会員、松本・長岡は会員ではない。〔有栖川日記〕〔地震学会会員姓名〕
- 80 河野通。長州、和歌山県大書記官。内国博のため在京。〔公〕
- 81 有栖川宮熾仁。皇族、左大臣。
- 82 ドイツ法の勉強会。有栖川宮、北白川宮、平田、荒川等が会員。〔有栖川日記〕
- 83 蔵前にあった国立図書館分館。博覧会後、上野に書籍を異動し閉館。〔明大〕
- 84 橋本義路。幕臣、農商務省商務局一等属。
- 85 片山遠平。石川、農商務省農務局一等属下等給。
- 86 西徳二郎。薩摩、太政官軍事部権大書記官・前ロシア公使館二等書記官。在露中の視察旅行に関し、東京地学協会例会で講演。『東京地学協会報告』三、六九頁。
- 87 杉孫七郎。長州、宮内大輔。〔刊品文〕
- 88 正しくは竹富嘯山。熊本、書画家。後の雅号清嘯で知られている。『日本書画鑑定辞典』二五九頁。
- 89 岩倉貞視。公卿、右大臣。
- 90 千種有任。公家。この時期の職種は不明。〔刊品文〕二、九四頁。
- 91 正しくは伊東巳代治。長崎、太政官内務部少書記官。伊藤博文側近。
- 92 石原豊貴。東京、農商務省商務局権少書記官、内国勸業博覧会事務官。〔博覧会〕
- 93 五月三十一日、北海道日高地方において蝗（いなご）の大発生が通報、以後約一ヶ月、政府は対応に追われる。『農商務省ノ部 飛蝗駆除方開拓使へ御達ヲ請フノ件』〔アジ歴〕
- 94 練木喜三カ。粕壁、農商務省駒場農学校教師。蝗害調査の為、北海道へ派遣される。『農商務省一等技手練木喜三四等技師ニ昇任ノ件』〔北海道飛蝗ノ件〕〔公〕
- 95 ステファン・レソフスキー。ロシア東洋海陸軍総督海軍中將。アドミラルは提督の意。〔明天〕三八二頁。『明治勲章大図鑑』二五四頁。
- 96 池田謙斎。越後農民、東京大学医学部総理。〔明大〕
- 97 午前晴天だが午後より降雨になること。〔対馬〕
- 98 伊藤博文。長州、参議。
- 99 河瀬秀治。宮津藩、農商務省商務局長。
- 100 山田寅吉。福岡、農商務省工務局雇。安積疏水・紋別製糖場に関係。〔明大〕〔公〕
- 101 弘前藩、青森県中津軽郡長。〔佐々木日記〕二八九頁。
- 102 毛利元徳。旧長州藩当主・第十五国立銀行頭取。従二位。『もりのしげり』二二八頁。
- 103 神鞭知常。京都、農商務省商務局権少書記官。〔明大〕
- 104 小室信夫。京都の商人、実業家。明治十五年、反三菱の船会社「共同運輸」を設立。『共同運輸会社の設立』〔明大〕
- 105 星野輝賢。新潟、大書記官。
- 106 福島県安積ヶ原開拓地の久留米開墾社員。『安積土族開拓史』一八九頁。
- 107 愛知県渥美郡豊橋村（現豊橋市）。郡長は松井謙。〔愛知地名〕
- 108 田辺輝実。丹波柏原藩、高知県令。および山吉盛典。米沢、福島県令。両者とも上京中。〔佐々木日記〕〔明大〕〔福島県令山吉盛典同上〕〔公〕
- 109 長谷川泰力。越後長岡、医師、文部省御用掛。
- 110 国貞廉平。長州、愛知県令。
- 111 正しくは古橋暉兒、別記暉貌。愛知豪農。博覧会の為上京。〔公〕〔愛知県平民古橋暉貌へ褒章授与ノ件〕五〇頁。〔古橋暉兒の生涯〕
- 112 品川は自身をこのように記す。
- 113 〔伊藤文書〕五、二三八頁。〔刊品文〕一、三九五頁。
- 114 宮島信吉。岐阜、農商務省山林局長。
- 115 山田顕義。長州、参議。
- 116 翌日、山田と逢うたため有栖川宮の可能性が高い。『有栖川日記』六月三十日条。
- 117 佐賀、貿易商。日本における国際荷為替創設者。
- 118 千坂高雅。米沢藩、石川県令。〔明大〕
- 119 奥青輔。薩摩、農商務権少書記官。
- 120 大槻吉直。福島、農商務省書記局一等属上等給。
- 121 中野武管。高松、農商務省山林局権少書記官。〔明大〕
- 122 牟田口元学。佐賀、農商務省書記局長、河野側近。〔政変退官者〕

- 123 青江秀。徳島、駅通局御用掛准判任。
- 124 塚原周造。茨城、農商務省書記局少書記官。
- 125 南保。青森、十二月農商務省商務局長心得。
- 126 榎取素彦。長州、群馬県令。
- 127 正しくは繭糸改良会社。前年に成立された群馬の生糸直輸出会社。政府出資が減らされ経営危機にある。『上毛繭糸改良会社沿革史』(佐佐木日記)三七八頁。〔刊品文〕三、一五三頁。
- 128 周布公平。長州、太政官法制部少書記官。
- 129 馬屋原彰。長州、太政官司法部権大書記官。
- 130 久保田讓力。兵庫、文部省少書記官。〔明大〕
- 131 五辻安成。公家、宮内省御用掛。
- 132 西島助義力。長州、陸軍近衛局第一連隊第二大隊中隊長歩兵大尉。〔防長〕
- 133 小原静。南武藩、医師、池田謙齋門下。〔池田文書〕一三八頁。
- 134 萩原友賢。山梨、農商務省工務局一等属上等。十月に退官。〔政変退官者〕
- 135 安藤就高。美濃大垣、会計検査院副長。
- 136 徳川家康は、いわゆる伊賀越えの際、鯛舟に隠れて紀伊半島から三河まで渡った俗説がある。
- 137 盛田命祺。尾張、農民。〔公〕
- 138 澄川延弥。長州、大審院検事補。〔防長〕〔品文〕。
- 139 宮島・塚原・富田農商務少書記官三名が権大書記官、和田農商務御用係准奏任が権少書記官に昇進。〔公〕
- 140 内海忠勝。長州、長崎県令。号は天湖で内海羊石とは別人。〔防長〕〔角倉了推理紀功碑〕
- 141 前田正名。薩摩、大蔵省権少書記官。
- 142 吉田健作。福岡、農商務省工務局属。〔工務局吉田健作上書麻製造創設ノ件〕〔公〕
- 143 岩山敬義力。薩摩、農務局権大書記官。
- 144 上村直則力。白川、長崎県少書記官。
- 145 横川源蔵力。滋賀、農商務省書記局二等属。
- 146 山脇玄。石川、太政官法制部権少書記官。
- 147 石川県の地名。現七尾市。〔石川地名〕
- 148 長与専斎。大村藩、内務省衛生局長。
- 149 三浦良春。東京、大蔵省書記局御用掛准判任。〔独逸学協会会員名簿〕
- 150 松田道之。島根、東京府知事。
- 151 松尾宗五。茶道松尾流七代。『茶道人物辞典』
- 152 吉富簡一。長州、山口県議会議長。〔防長〕
- 153 輸出来に關係するドイツ商人。〔ザイゲル〕との約定書。〔公〕
- 154 現在の墨田区向島の辺り。〔東京地名〕
- 155 松野圃。長州、山林局御用掛准奏任。
- 156 長州、東京大学幹事。
- 157 日下義雄力。会津、太政官外務部権少書記官。〔明大〕
- 158 遠浪純芳力。長州。
- 159 長州、医師。〔防長〕『日野宗春』
- 160 福島県会津に同名の地所(現河沼郡会津坂下町)があるが、続く地名群と離れており整合が取れない。或は人名力。〔福島地名〕
- 161 福島県浜通りの旧相馬中村藩の地域。続く三原野はこの付近。〔福島地名〕
- 162 三ヶ所ともに現福島県浜通り双葉郡の地名。上・下繁岡村(現植葉町)、井手村(波江町)、上・下手岡村(富岡町)と思われる。〔福島地名〕
- 163 長州、大蔵省租税局四等属。
- 164 原市蔵力。青森県三戸郡長。
- 165 速水堅曹。前橋藩、生糸直輸出専門商社である横浜同伸会社社長。〔明大〕
- 166 津田要。丹波柏原藩、岡山大書記官。このとき開拓使より帰京。〔岡山大書記官津田要帰任ノ件〕〔公〕
- 167 徳川五代将軍、綱吉。『国史大辞典』
- 168 太田黒惟信。熊本、日本鉄道会社を準備中。〔明大〕
- 169 福永得三。長州、農商務省山林局一等属。
- 170 関新平。長崎。
- 171 明治天皇第三皇女、滋宮詔子。〔明大〕
- 172 八木正路。秋田、農商務省書記局五等属。
- 173 七月三十一日、福島県安積疎水第一著工事、山潟通水式に出席。『安積疎水百

- 年史』
- 174 十日〜十二日の英数字は原文どおり、使用金額と思われる。
- 175 同名の場所が葛飾にあるが文中と位置が合わない。〔東京地名〕
- 176 現府中市。〔東京地名〕
- 177 同名の村は見当たらず。南多摩郡上長房村小名路（現八王子市西浅川町）又は同村駒木野（現同市裏高尾町）カ。〔東京地名〕
- 178 浅川。八王子・日野を通る多摩川の支流の一つ。〔東京地名〕
- 179 鎌水は現八王子市、小山田・木曾・原町田は現町田市。本吉田は本町田の誤記カ。〔東京地名〕
- 180 正しい表記は江の島、岩本楼は今も残る料理屋。〔神奈川地名〕
- 181 穴戸昌。東京、農務省工務局長。
- 182 池田謙三。但馬、銀行家。〔明大〕
- 183 浅田正文カ。遠江横須賀藩、三菱会社重役。〔明大〕
- 184 愛媛今治、農務省農務局二等属。
- 185 熊野九郎。長州、大蔵省調査局少書記官。
- 186 静岡、佐野城東郡長、豪農。〔岡田良一郎〕
- 187 宮崎総五カ。静岡、元有渡安倍郡長。
- 188 吉村正義。長州、大蔵省記録局少書記官。
- 189 河瀬真孝。長州、元老院議員。
- 190 服部長七。三河出身、土木技術者。愛知の港湾工事を行う（十月十三日参照）。
- 191 鳥尾小弥太の号。長州、陸軍中将近衛都督。〔防長〕
- 192 山県伊三郎。長州、品川甥・有朋養子。『公爵山県有朋伝』
- 193 国重政亮。長州、慶応義塾学生。『品川弥二郎伝』一九四頁。
- 194 奈良原繁。薩摩、農務局権大書記官。
- 195 故吉田松陰。
- 196 桂太郎。長州、太政官軍事部権大書記官。
- 197 紅葉山。今の靖国神社周辺。山県の別邸・品川の本宅があった。「千鳥ヶ淵周辺に住んだ人々」。
- 198 柴田承桂。名古屋藩、薬学者・東京試薬所長。「独逸学協会会員名簿」
- 199 武市啓。土佐、政府系民権政社共行社員。翌年、水野寅次郎と共に東洋新報
- 200 鳥尾・三浦・谷千城陸軍中将（土佐）・曾我祐準陸軍少将（柳川藩）。〔年表〕
- 201 西郷従道。薩摩、参議。
- 202 野村靖。長州、神奈川県令。
- 203 長谷川準也。加賀藩。実業家。『長谷川準也君伝』
- 204 林友幸。長州、元老院議員。
- 205 品川文書中で散見される人物。明治期に著作もしている。詳細不明。
- 206 間野凸溪カ。書家、備中。『大日本人辞書』
- 207 柏村信。長州、第十五国立銀行支配人。〔防長〕
- 208 正しくは京都府葛野郡川島村居住の旧家。〔刊品文〕三、三〇頁。
- 209 寺崎遜。神奈川、後、内閣属官。この時期の官職不明。〔公〕
- 210 建野郷三。小倉藩、大阪府知事。
- 211 田中芳男。幕臣、農務省農務局長。
- 212 西田栄太郎。長州、農務省商務局三等属。
- 213 久原庄三郎カ。長州、実業家。藤田伝三郎兄、久原房之介父。〔明大〕
- 214 長州、幕末時、小郡の諸隊集議隊参謀。この時期の職種不明。「小郡町史」二二二頁。
- 215 船越衛。広島藩。千葉県令。
- 216 垣田弥。長州、農務省農務局二等属。
- 217 『朝日新聞』明治十四年十月十三日。
- 218 黒田清隆。薩摩、参議・開拓使長官。
- 219 正しくは佐佐木高行。土佐、元老院副議長。
- 220 この時期、佐佐木は政府の非を正す機関を構想しており、高官の間ではそれをこのように呼んだ。〔佐佐木日記〕四八九頁。
- 221 明治時代にこの日に行われていた宮中行事。〔明大〕
- 222 大山巖。薩摩、陸軍卿。フランス公使の内定を取消、翌日より参議兼任。〔佐佐木日記〕四九四頁。
- 223 福地源一郎。幕臣、東京日日新聞社社長。〔明大〕
- 224 後のジョージ五世とアルバート・ヴィクター王子。〔明大〕

- 225 牧畜家、長崎県。(八)
- 226 曾根静夫。千葉、山林局一等属下等級。
- 227 穴戸工務局長・牟田口山林局長・河瀬秀治商務局長の退官。(八)
- 228 加藤秀一。下総種畜場内金堀区牧場の松下を交渉中。「同場内両国区字金堀外二区東京府士族加藤秀一外七名松下の件」(八)
- 229 中井弘。薩摩、工部省大書記官。
- 230 真中忠直。埼玉県。駅通局一等駅通官。
- 231 菊池庸太郎。宮城農民、大日本勸業農社社員。及び茨城農民黒寄大四郎、静岡農民伊藤東太郎。三名とも東京在住。(品川文書その一) 一一九七。
- 232 富田冬三。幕臣、農商務省商務局大書記官。
- 233 ポール・マイエット。ドイツ人、文部省東京大学医学部教師。「独逸学協会職員名簿」
- 234 小山正武。三重、農商務省商務局少書記官。
- 235 榎本武揚。幕臣、宮内省御用掛。
- 236 芳川顕正。徳島、外務少輔。
- 237 渋沢喜作。幕臣、実業家。共同運輸発起人の一人。(共同運輸) (明大)
- 238 正しくは独逸学協会、獨協大学の母体となるドイツ学の研究会、会長北白川宮、品川は幹部。(明大)
- 239 川村純義。河村と書かれることも多い。薩摩、参議兼海軍卿。
- 240 八王子の豪農、府県会議員。『多摩の人物史』
- 241 磯貝静蔵。岐阜、神奈川県少書記官。
- 242 神奈川・山梨・群馬・埼玉の四県。「東京日々新聞」十一月十日。
- 243 この年、美濃出身の女性教育者下田歌子が高官妻女に対する私塾「桃夭女塾」を開設、講義の目玉が源氏物語のためこう呼ばれたと思われる。『下田歌子先生伝』一八五頁。
- 244 徳大寺実則。公卿。(明大)
- 245 弥二郎長男。『品川弥二郎伝』
- 246 近代イギリス・ドイツの料地特権。『財政学』一一三頁。
- 247 土器の兜を冠る騎馬戦がこの時期、迎賓イベントとして行われていた。(明大) 五六五頁。
- 248 故大村益次郎永敏。長州、兵部大輔。『東京日々新聞』
- 249 田中光顕。土佐、陸軍省會計局会計監督長。
- 250 尾川清足。長州、内務省土木局四等属。品川従弟。十六年九月死去。(池田文書) 五三三頁。
- 251 長瀬義幹。農商務省書記局二等属、長崎。
- 252 オスカル・ケルネル。ドイツ農学者。十一月十四日に来日。(年表)
- 253 松山長力。福島農民。
- 254 滋野清彦。長州、陸軍省総務局法則掛主事歩兵大佐。(明大)
- 255 織田完之。愛知、農商務省農務局四等属。
- 256 金原明善。静岡豪農。(刊品文)
- 257 堀江芳介。長州、陸軍参謀本部管東局長大佐。
- 258 花房直三郎。岡山、ドイツ語翻訳者。兄義實は在外外交官。(八)
- 259 種田邁。和歌山、農務省山林局一等属下等級。
- 260 吉井友実。薩摩、元元老院議員兼工部大輔。十一月七日、日本鉄道起業のため退官。(八)
- 261 大浦兼武。薩摩、警視庁五等警視陸軍歩兵中尉。
- 262 山田脩。福島二本松、二本松製糸会社副社長。『二本松市史』九、一〇八頁。
- 263 東京都世田谷区若林にある吉田松陰墓。現在の松陰神社。
- 264 益田孝。佐渡、三井財閥総帥。共同運輸発起人の一人。(共同運輸) (明大)
- 265 新潟県、実業家。『大日本人物誌』
- 266 藤村紫朗。熊本、山梨県令。
- 267 足立太郎。長州、工部省鉱山局少書記官金石右在勤。
- 268 桜井弥五平。埼玉農民。(八)
- 269 神山郡廉。和歌山、和歌山県令。(八)
- 270 正しくは江原素六。幕臣、静岡県駿東郡長。
- 271 下田歌子、山県夫人友子、田中光顕夫人伊興子、長州出身陸軍中将三好重臣夫人梅子。『華族譜要』「下田歌子差出書簡」
- 272 八尾正文。長崎、太政官第二局一等属。
- 273 越後、実業家。共同運輸発起人の一人。(共同運輸) (明大)
- 274 渡辺国武。信濃高島藩。

- 275 津山藩、牧畜家。(岡山畜産)
 276 長州、工部省鉱山局権少書記官三池在勤。
 277 大野誠。越後新発田藩。
 278 北垣国道。兵庫、京都府知事。
 279 高松、塩田関係の実業家、民権家。(公)『香川県の歴史』二七〇頁。

四 参考文献

〔 〕は頻出引用のための略称。

I ウェブ情報

- 国立国会図書館デジタルコレクション
 太田千彦編『静岡県職員録 明治十四年二月調』(提醒社、一八八一年)
 故下田歌子先生伝記編纂所『下田歌子先生伝』(故下田歌子先生伝記編纂所、一九一四年)
 埼玉県『埼玉県職員録 明治十四年七月改』(埼玉県、一八八一年)
 時山弥八『稿本もりのしげり』(発行者不明、一九一九年)
 徳富猪一郎編『公爵山県有朋伝』全三卷(山県有朋公記念事業会、一九三三年)
 日本地震学会『日本地震学会規則…附会員姓名宿所 明治十九年六月』

- 彦根正三編『改正官員録』明治十四年一月〜十二月(博公書院、一八八一年)(官)
 宮崎有敬『上毛繭糸改良会社治革史』(上毛繭糸改良会社、明治二四年)
 『旧各社事蹟』(高知旧各社記念会、一九三八年)
 『第二回(明治十四年)内国勸業博覧会事務報告書』(農商務省博覧会掛、一八八三年)
 国立国会図書館/憲政史料室の所蔵資料/憲政資料/古沢滋関係文書解題
 国立公文書館デジタルアーカイブ「公文録」(公)
 アジア歴史資料センター「アジ歴」
 京都市歴史資料館/情報提供システム「角倉了推理紀功碑」
 実践女子大学/下田歌子電子図書館「下田歌子差出書簡」
 千鳥ヶ淵戦没者墓苑/千鳥ヶ淵戦没者墓地周辺の今昔「千鳥ヶ淵周辺に住んだ人々」
 「江戸時代の対馬のくらしを探る―宗家文庫史料による天気調査を通して―」『対馬歴史門族資料館報』二七
 コトバンク「講談社日本人名大辞典」
 朝日新聞デジタル/聞蔵Ⅱ『朝日新聞』明治十四年十月十三日
 おかやま畜産ひろば 岡山県畜産協会編『岡山県畜産史』一九七〇年
 毎案(毎日新聞社デジタルデータベース)『東京日日新聞』明治十四年

II 未刊行史料

国立国会図書館憲政資料室所蔵

『樺山資紀関係文書(その1)』『日記墨書 三、四』

『品川弥二郎関係文書(その1)、(その2)』

III 刊行史料

池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙齋 池田文書の研究』

上下(思文閣出版)

伊藤隆ほか編『尾崎三郎日記』上(中央公論社、一九九一年)

伊藤博文関係文書研究会編『伊藤博文関係文書』五(塙書房、

一九七三〜八一年)

霞会館華族資料調査委員会編『東久世通禧日記』(霞会館、

一九九五年)

宮内庁編『明治天皇紀』五(吉川弘文館、一九七二年)(明天)

尚友倶楽部品川弥二郎関係文書編纂委員会編『品川弥二郎関係文書』

既刊七卷(山川出版社、一九九三〜二〇〇九年)〔刊品文〕

田崎公司『東京曙新聞復刻版』(柏書房、二〇〇四年)

獨協学園百年史編纂室編『独逸学協会会員名簿』『獨協学園史資料

集成』(獨協学園、二〇〇〇年)

東京大学史料編纂所編『保古飛呂比 佐佐木高行日記』十(東京大

学出版会、一九七八年)

東京地学協会監『東京地学協会報告』三(ゆまに書房、一九九〇

年)

日本史籍協会編『熾仁親王日記』二(東京大学出版会、一九三五

年)

日本大学史編纂室編『山田伯爵家文書』(日本大学、一九九二

年)

松方峰雄ほか編『松方正義関係文書』六〜十、別巻(大東文化大学

東洋研究所、一九八五〜一九九七年)

『東京日日新聞マイクロフィルム』(日本マイクロ写真K. K.)

IV 通史・辞典・年表

安積疎水百年史編さん委員会編『安積疎水百年史』(安積疎水土地

改良区、一九八二年)

石井良助監『近代日本法律司法年表』(岩波書店、一九八二年)

石川県編『石川県史』四(石川県図書館協会、一九七四年)

岩波書店編『近代日本総合年表第三版』(岩波書店、一九九七年)

〔年表〕

上野益三『お雇い外国人』三 自然科学(鹿島研究所出版会、

一九六八年)

倉間勝義『多摩の人物史』(武蔵野郷土史刊行会、一九七七年)

佐々木隆『明治人の力量、日本の歴史』二二(講談社、二〇〇二

年)

大日本人名辞書刊行会著『大日本人名辞書』〔復刻版〕(講談社、

一九七四年)

高橋哲夫『安積士族開拓史』(歴史春秋出版、一九八三年)

遠山茂樹ほか著『近代日本政治史必携』(岩波書店、一九六一年)

中野雅宗編『日本書画鑑定辞典』五(国書刊行会、二〇〇八年)

成瀬麟他編『大日本人物誌』(八紘社、一九一三年)

日外アソシエーツ編『美術家人名辞典 工芸編』(日外アソシエーツ、二〇一〇年)

二〇一〇年)

日外アソシエーツ編『明治大正人物辞典』I(日外アソシエーツ、二〇一一年)

二〇一一年)

日本史籍協会編『現代華族譜要』(東京大学出版会、一九二九年)

二本松市編『二本松市史』九(二本松市、一九八九年)

野島寿三郎編『新訂増補歌舞伎人名事典』(日外アソシエーツ、二〇〇二年)

二〇〇二年)

原田伴彦編『茶道人物辞典』(柏書房、一九八一年)

平山晋『明治勲章大図鑑』(国書刊行会、二〇一五年)

福島民有新聞社『福島百年の人びと』(福島民有新聞社、一九六八年)

年)

編纂委員会編『角川日本地名大辞典』七福島県(角川書店、一九八三年)、十三東京都(一九七八年)、十四神奈川県(一九八四年)、十七石川県(一九八九年)、二三愛知県(一九八九年)

宮地正人ほか編『明治時代史大辞典』全四卷(吉川弘文館、二〇一三年)(明大)

矢部良明ほか編『角川日本陶磁大辞典』(角川書店、二〇〇三年)

八代国治編『国史大辞典』(吉川弘文館)

吉田祥朔『近世防長人名辞典』(マツノ書店、一九七六年)(防長)

和田仁ほか『香川県の歴史』(山川出版社、二〇一一年)

V 伝記・談話

阿部信一『品川子爵追悼録』(警眼社、一九〇〇年)

小浜市立図書館編『和田維四郎』(小浜市立図書館刊、一九八〇年)

奥谷松治『品川弥二郎伝』(高陽書院、一九四〇年)

加藤房蔵編『伯爵平田東助伝』(平田伯爵伝記編纂事務所、一九二七年)

一九二七年)

西那須野開拓百年記念事業推進委員会第一専門部会発刊専門委員

『印南文作・矢板武』(西那須野町、一九八一年)

芳賀昇『維新の精神豪農 古橋暉児の生涯』(雄山閣、一九九三年)

日野巖『日野宗春』(私家版、一九五八年)

三戸岡道夫『冀北の人岡田良一郎』(栄光出版社、一九九三年)

和田文次郎編『長谷川準也君伝』(小泉顕治発行、一九二一年)

鷺尾義直編『内海羊石翁詳伝』(博文堂、一九三二年)

VI 研究書

木村元一『財政学：その問題領域の発展』(春秋社、一九五〇年)

佐々木隆『伊藤博文の情報戦略』(中央公論社、一九九九年)

森川潤『井上毅のドイツ化構想』(雄松堂、二〇〇三年)

VII 逐次刊行物掲載論文

加地照義『共同運輸会社の設立』『海事経済研究』八(一九七四年)

佐々木隆「第一次松方内閣期の新聞操縦問題」『東京大学新聞研究
所紀要』三一（一九八三年）

佐々木隆「明治時代の政治的コミュニケーション（その1）」『東京
大学新聞研究所紀要』三一（一九八四年）

佐々木隆「藩閥の構造と変遷―長州閥と薩摩閥―」『年報・近代日
本研究』一〇（山川出版社、一九八八年）

齋藤伸郎「明治十四年の政変」時退官者の基礎的研究』『国士館史
学』一四（二〇一〇年）

樋口輝久他「服部長七と品川弥二郎」『土木研究 講演集』二六
（二〇〇六年）

以上

（さいとう のぶお＝メーカー勤務）